

JAF-MATE 7.

ジャフメイト

AUTO USERS' MONTHLY MAGAZINE 2001

第39巻第6号 平成13年7月1日発行(毎月1回発行) 昭和39年6月12日第3種郵便物認可

16,200,000人のユーザーズマガジン

森の空気。

タイヤの空気圧
ミニバンは万能グルマ
街で見かけた車庫ガーデニング

関西シリーズが行われた鈴鹿サーキットにて(撮影=早川俊昭)。



椎名孝典選手を見送る奥さんの美奈子さん。「西日本にも出たいですね」

東北2戦目4位の内田真人選手。奥さんの昌子さんも去年免許を取得。

参加台数が増え続ける、人気の
ヴィッツ・シリーズが2年目を迎えた。
ニコニコ顔の参加選手らにその魅力を聞いてみた。

ヴィッツシリーズ

ピクニック気分で レースに 参戦できる。

2年目の人気レース

静岡県にある富士スピードウェイに向かう途中の東名高速で、何台ものヴィッツを見かけた。それだけならどうということもないが、それらはみんな、スポンサー名などのステッカーが貼られた競技用のヴィッツ。富士で行われるレースに出るクルマが、そのまま高速道路を走っていたというわけだ。

去年から始まったワンメイクレース、リッターエンジンのヴィッツを使用したネットカップ・ヴィ

ッツシリーズは、今年も多くの参加者が集まり大人気。その人気の秘密は、気軽さと楽しさにある。

ナンバー付きの車両、つまりいつも乗っているクルマで参加できるから、ほとんどの人はレース場まで自分で運転して行く。トランスポーターなどを使わなくてもいいので、レースにかかる費用を少なくすることができ

た。ディーラーに行けばベース車両から約22万円高、約100万円からレースに必要なパーツを装着したクルマを販売している。ヴィッツシリーズは、自動車レースの経験がない人にとっても金銭面などで極めて参加しやすいレースだ。

「ナンバー付きのレースが始まる」と聞いて、参加して盛り上げようと思ったんですけど、こんなに集まるとは」というのは、椎名孝典選手。必ず応援に来るといふ奥さん、お嬢さんといっしょだ。

やはり家族連れで来ていて椎名さんと知り合い、今では同じチームのように仲良くしているのが高田英明選手。高田さんの大学時代からの仲間、野田浩介選手とお友達も加わり、アウトドア用のイスやテーブルなども備えられてピットはとてまごやかだ。

「このレースの楽しさは、みんな



富士のヘアピンを攻めるヴィッツ。決勝では果敢に攻めたあげく、スピンや接触も……。

でワイワイ言いながら出られることですよ。結果はおいといいて(笑)」と野田さん。最初はひとり参加していても、初心者やレース好き同士、いろいろ教え合ったりして仲良くなることもできる。勝負にもこだわられるけれど、サーキットで友達に会うのも楽しみ。そんな楽しい学校のような雰囲気があることも人気の一因だ。

そしてたとえ予選を通過できなくても、コンソレーションレース(残念レース? 失礼!)といううれつきとしたレースに出ることができるといふのもうれしい。改造など、お金をかけようと思えばキリがないが、1レースにつき参加料の3万5000円と交通費と宿泊代などがあればレースに出られる(A級ライセンス取得などの条件あり)。「こんな派手なクルマ恥ずかしくて普段乗れないって妻に言われます。クルマと家庭を壊さずに、がモットーです(笑)」と言って、高田さんは楽しそうにコンソレーションレースに向かって行った。

千々石みちの=取材・文 大塚雅貴=撮影
report & text by Michino Chijiishi photos by Masataka Otsuka